

数学は国際性が極めて高い学問であり、当研究科には、毎年海外から多くの数学者が訪れて活発な研究交流を行っています。研究交流に加えて、優秀な留学生を育てることは、東京大学の国際的責務の一端を担うと同時に、多様性を通じて日本人学生にも勉学や生活意識に良い刺激を与えます。国際的に卓越した研究・教育を維持することと、世界の俊英が東大に惹きつけられるような魅力ある大学院づくりを私たちが常に心がけることは表裏一体です。

当研究科は1992年の創設時より、外国人留学生を積極的に受け入れる方針をとり、国立大学の数学系大学院で初めて、毎年修士課程で6名、博士課程で3名の留学生を定員内で受け入れることを制度化しました。これまでに当研究科で修士課程を修了した外国人留学生は124名、博士号を取得した学生は89名にのぼり、当研究科が留学生を受け入れた国は26カ国を超えます（2024年3月末現在）。この中には、国費留学生や私費留学生の他、当研究科独自の留学生支援事業で援助された学生も少なからず含まれています。この事業に必要な資金の一部は、寄付によって賄われてきました。現在も東京大学フェローシップにより毎年1～2名の留学生を援助しています。コロナ禍がほぼ終了に向かいつつある現在、急激な円安の数少ない利点として先方負担による短期留学生や大学間協定等による交換留学生の制度によるヨーロッパからの短期留学生も本格化して増えつつあり、留学生の出身国は多様化する傾向にあります。

当研究科の国際交流室では、私費留学生を含めて25名近くいる外国人留学生の生活支援・相談などの業務を行っています。また、海外在住者からの留学に関する問合せも数多くあり、これらの膨大な業務に、少人数の献身的な職員と国際交流担当の教員で対応しています。当研究科の入学試験に無事合格した留学生にとっては、やはり都心という場所柄、その住居の確保も頭を悩ませる問題です。留学生が入居できる施設も少しずつ増えてきていますが、東京大学全体の留学生数の増加により、大学のインターナショナルロッジや学生寮に入居できない留学生がまだ多くいるのが現状です。コロナ禍による留学生の心のケアと同時に、ポストコロナ時代における先導的な取り組みも重要になります。

世界のトップ大学間の国際競争の中、世界における当研究科の求心力を高めるため、無二の研究の推進と同時に、優れた留学生を受け入れるための奨学金・学生寮を含めた支援体制が今後さらに強化されていくことが望めます。

(文責 小林 俊行)

●留学生出身国・地域別人数

括弧内は女性で内数
2024年5月現在

国籍（出身地域）	修士課程	博士課程	研究生／ 聴講学生	合計
中国	4 (1)	9	0	13 (1)
韓国	1	1	0	2
台湾	1	0	0	1
モロッコ	0	1	0	1
フランス	0	0	1	1
合計	6 (1)	11	1	18 (1)

